

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人千鳥会	代表者	吉村秀樹	法人・事業所の特徴	事業所の独自性を継続するため、通い・泊まり・訪問を柔軟に組み合わせ、個々ご利用者にあった必要な支援を行っている。 事業所の体制に応じてではあるが、要介護度や事業所都合での支援内容の制限、調整は行っていない。また、相談に対し、できる事を提案しながら利用者家族と一緒に悩み考え寄り添っていける事業所でありたい。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	管理者	片山まゆみ		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	0人	0人	1人	0人	4人	0人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	体制や職員が入れ変わっても、利用者家族の多様な生活歴や価値観に寄り添った支援を続けていく。継続した職員の育成とモチベーションの維持が必要。	職員異動にあたり継続して支援出来る体制、また申し送りを重ねる事でチームケアに支障がでないように努めた。倫理教育の一環として検討会議、毎日行われるミーティング時に法人理念や事業所スローガンに加え日替わりの交通安全、虐待防止などの日替わりスローガンを作成、毎日唱和し職員の意識向上に努められた。	① 【初期支援】 NO.4 本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係作りの配慮をしています。に対して、変則勤務である中、情報量が多く把握仕切れているか不安に思う部分がある。訪問件数や回数が増す中で時間に追われての業務になり、余裕がもてず細かな対応が出来ない事に葛藤する。 ② 【～したい】の実現 NO.1 新規ご利用者契約時には、計画作成担当者また主たる介護職員が同行している。知り得た情報の共有は行え、支援に結び付けている。しかし、変則勤務者に関しはご利用者の「～したい」の目標把握ができていないかと不安に感じている部分もある。また、「～したい」という気持ちは把握出来ているが、どうしても今の生活状況に目が行きがちになってしまう部分もある。 ⑥ 【連携・協働】 NO.2 運営推進会議や地域ケア会	① 【初期支援】 NO.4 朝・夕の申し送りを綿密に行う事で、数日の利用者変化に伴い柔軟に対応ができるよう努めているものの変則業務もあり、把握が薄れている部分もある事から月1度の検討会議に初期のアセスメントシートを用い、再確認を行っていき全スタッフ努める。また、事前把握する為に時間の余裕をもちチームで連携し業務を行えるよう努める。 ② 【～したい】の実現 NO.1 「～したい」との思いを汲み取り、情報発信できるよう、契約時のアセスメントシートに長期・短期目標など記載しスタッフと情報共有していけるよう努める。 ⑥ 【連携・協働】 より施設・事業所行事はじめ、引き続き地域密着型のサービスとして自治会区との交流を密に行い、より身近な足を運びやすい施設・事業所となれるようにしていく。 感染対策を行いながら、事業所スペースで何か出来ることはないかと関係機関とも共有していきたいと考える。

			議参加については、計画作成担当者また、一部の職員に限られている。一職員までの意識は薄い。チームへの報告事項は、継続して共有していく。報告事項は、今後も共有する。	
B. 事業所のしつらえ・環境	なし。	なし。	NO.2・3 事業所の雰囲気は、把握出来ているが小規模多機能でのご利用者が過ごす空間への見学を行った事がない。	新型コロナウイルス感染状況により、面会制限が実施される中でありこの状況が落ち着いた際、見学会が行えるよう計画に努めたい。
C. 事業所と地域のかかわり	なし。	なし。	NO.4 地域行事への参加については、今年は新型コロナウイルス感染状況の影響で行事の多くが中止となった。引き続き感染対策をしっかり行い、地域・自治会との交流を図れるよう情報収集、交換を行いながら努める。より身近に足を運びやすい事業所となれるよう努める。	なし
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	引き続き主たる施設行事に地域・自治会に案内を行い、身近に足を運んでもらえるように努める。又事業所の支援が増えても、利用者が馴染みの地域の行事に参加できるなど地域に帰る機会を積極的に支援していく。ついては地域と施設事業所との交流を図っていく。	新型コロナウイルス感染状況により、地域との交流・面会などが中止・制限している中で、関係各位からの交流も控える事態となり、施設内のイベントも最小限にとどめ交流を図っている状況となる。事業所の支援が増えても積極的に関わりを持ち対応していけるよう他機関との連携を大切に情報収集を行い努めて行きたいと考えています。	NO.4 利用者以外のご近所の心配な方については、運営推進会議や地域ケア会議で議案になる方へ少しずつ関わっている。継続し取組み、また関係機関との連携情報収集に努めていきます。	なし。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議は地域との関わりで事業所の取組み、利用者情報、支援方法と共に関係機関の方々と意見交換し、事業所運営に活かす。	取り巻く環境から、地域より心配な声が上がった際などに、都度適切な情報の報告、収集に努めた。また、事業所で支援している利用者の大きな変化（利用形態等も含め）については、社会福祉協議会に報告相談、報告と共に連携を行い、また地域連絡会へできる限り参加し、自らの事業所取組みや共有すべき利用者ケース情報を提議して連携に努めた。個人情報保護を遵守しながら	NO.2 運営推進会議での事例検討については、事例報告を行い、また意見交換を行いながら、事業所運営に活かしている。支援している利用者の大きな変化（利用形態等も含め）については、社会福祉協議会に報告相談するなどして連携を深める。また地域連絡会にも参加をできる限り行い、自らの取組みや共有すべき利用者ケース情報を提	なし。

		<p>らも、地域における支援の中で適切な情報の報告、共有を図れるよう努めた。</p>	<p>議して連携に努めていく。個人情報保護を遵守しながらも、地域における支援の中で適切な情報共有を図れるようにする。</p>	
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>NO、2・3 地域との共同の訓練については、行政が企画する訓練の際に、合わせて実施参加できるようにする。</p>	<p>今年度は新型コロナウイルス感染状況により行政等の交流もなく、又、外出等の自粛があり十分な交流ができなかった。</p>	<p>NO.2 東浦地区での訓練がある時の参加を。 NO.4 防災、訓練の拠点になると、ご利用者職員に迷惑になるのではないか。混雑、混乱してしまう予測は考えられるが、拠点となるようには取り組んでいけるよう努めたい。継続課題である。</p>	<p>NO.2 地域との共同訓練については、行政が企画する訓練の際に合わせて実施参加できるようにする。</p>